

Biomeで広がる 市民科学調査

誰でも楽しみながら生き物調査を

Biomeクエスト

アプリ「Biome」に実装されたクエストは、指定されたエリアで、対象種を探して現実のフィールドを探索するゲーム機能です。クエストを達成すると、平常時よりも高いアプリ内ポイントを得ることができるほか、アプリ内でクエストクリアバッジが付与されます。



クエストの中には場所・対象種・種数に紐づいた「ミッション」と呼ばれる小さな体験リストが設定されています。クエストの達成までの道のりをマイルストーンにした「メインミッション」、クエストの体験をさらに深掘りしたり充実させるための追加目標となる「エクストラミッション」があります。

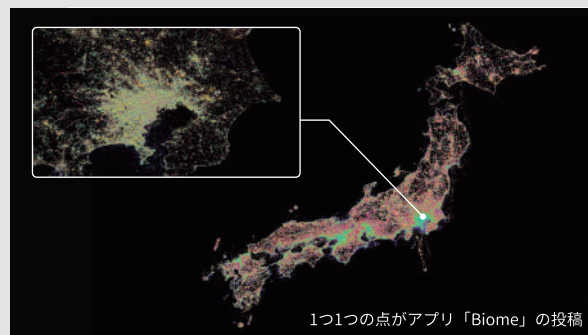


ミッションを組み合わせることで、生物多様性の普及啓発、希少種保全、外来種防除、観光多角化、リジェネラティブツーリズム、緑地・森林活用、自然観察イベント、社員研修など様々なニーズに対応することが可能です。

Biomeによって蓄積された生物データ

Biomeデータベース

日時、場所、分類、画像と紐づいたアプリへの投稿は、BiomeDBとして日々蓄積されています。Biomeの普及とクエストによる自然体験の価値向上を通じて、1日最大15,000件ほどのデータが継続的に更新されており、日本最大級のリアルタイム生物データが構築されています。



▲ Biomeの全投稿マップ (2025年8月)

BiomeDBの特徴の1つとして「都市部を中心とした高密度のリアルタイム生物データ」が挙げられます。これらを専門家・研究機関や行政機関が保有する自然度の高い地域とのデータと組み合わせることで、多様な開発・解析サービスを提供しています。

蓄積される投稿データは、外来種の侵入状況の把握、データドリブンな緑地・公園管理、自然共生サイトやABINCなどの認証制度を見据えたデータ整備など様々な用途での活用が可能です。さらに、一部のデータは専門家の検証を経て、インベントリ作成や環境政策にもご活用いただいています。

Biomeの導入事例は裏面へ



株式会社バイオーム

〒600-8431 京都府京都市下京区綾小路通新町東入善長寺町143 マスギビル305

TEL : 075-432-7622 WEB : <https://biome.co.jp> Email : info@biome.co.jp

東京都 × バイオーム で 生物多様性保全促進の基盤情報を整備

2023年度より東京都と協定を結び、生物多様性保全を促進する基盤情報として、都内の野生生物の分布状況をまとめたデジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」の作成を進めています。

この台帳は、「Biome」アプリを活用した市民科学データと専門家による文献、標本データなどを合わせ、発見時期や位置情報などを結びつけており、誰もが簡単に検索し、デジタルマップ

上に表示することができます。2024年5月に第1弾として、トンボ目を対象にした「東京のトンボ目録」を公開しており、市民と専門家の連携を通じ、目録を順次作成・公表し、台帳をアップデートしていきます。

台帳の作成・更新以外にも、Biomeのビックデータをもとに生物多様性課題の解決に向けた都の施策への活用を今後進めていく予定です。



東京いきもの調査団と東京いきもの台帳についての詳細は、こちらからご覧いただけます。



東京いきもの調査団を覗いてみよう！
<https://ikimono.tokyo/>

名古屋市「生物多様性重要エリアマップ」に 投稿データを活用

名古屋市では2023年から「なごやいきものクエスト」を実施し、市民協働による生きものの調査を続けています（図X）。収集された生物分布ビッグデータは、保全上重要なエリアを示した「生物多様性重要エリアマップ」の作成に活用されました（図X）。本マップの取り組みは第5回グリーンインフラ大賞優秀賞を受賞しました。

作成されたマップは、自然共生型のまちづくりの基礎的な情報として、特に市内の開発・不動産事業における活用が期待されています。

このように、Biomeのデータは、都市の開発や行政の環境政策への活用が進んでいます。

生物多様性重要エリアマップの詳細は、こちらからご覧いただけます。

